様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　４ 月 ２８ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０４３３８

研究課題名（和文）思春期の子育て危機が夫婦ペアレンティングに及ぼす影響

研究課題名（英文）Mothers' Coparental Regulation in Families with Adolescents.

研究代表者
加藤　道代（KATO, Michiyo）

東北大学・教育学研究科・教授

研究者番号：６０３１２５２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：思春期の子育てにおける母親から父親への調整行動（促進と批判）について、父親と母親
を対象とした半構造化面接を行った。促進は「子ども（父親）の言葉や気持ちを父親に（子どもに）代弁する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親」「父親に子どものことで相談・依頼する母親」「父親を立てる母親」「感謝する母親」に分類された。批判は「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」「仲裁者としての母親」に分類され、父親不在時の父子関係仲介や仲裁も行われていた。促進は父親に認識され一致したコペアレンティングに結びつきやすいが、母親の批判の意図、真意やその後の調整行動は、父親に十分には伝わらない可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
わが国の子育ては、乳幼児期に限らず概ね母親が第一養育者である。母親が父親とのコペアレンティング関係を形成、維持するための調整行動の詳細について、「父親－母親－子ども」単位の日常的エピソードを促進と批判の両側面から抽出し分類した。母親は母子関係、父子関係、父母関係という多様なサブシステムをつなぐ仲介役として、多彩な工夫と調整を行い、直接的、間接的に家族関係維持に努力していることが明らかとなった。さらに、間接的あるいは明示的ではない調整行動や衝突回避の努力は、家族成員間で共有されにくいため、コペアレンティング支援の基礎として家族内のコミュニケーションの質を高める支援が必要であることが提案された。

研究成果の概要（英文）：Mothers and fathers were asked to describe their coparental regulatory behaviors (encouragement and criticism) regarding the fathers' involvement with their adolescent children. Mothers' encouragement included "speaking to the father on the child's behalf," "arranging father-child activities," "consulting the father in child-rearing," "showing respect for and asserting the father's position in the family," and "thanking the father for his involvement." Mothers' criticism included "checking and modifying the father's behavior toward the child," and "arbitrating and/or mediating father-child relationships." Furthermore, the mother's arbitration and/or mediation in the father-child relationship occurred even in situations invisible to the father. While the mother's encouragement allowed the father to learn about how the children were being raised in harmony, her criticism suggested that it was hard for the father to grasp the mother's meaning or intention.

研究分野：発達心理学　臨床心理学

キーワード：コペアレンティング　思春期　子育て　夫婦ペアレンティング調整行動　促進　批判　家族システム　コミュニケーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

家族システム論では，「父（母）子関係」、「父母関係（夫婦ペアレンティング）」、「夫婦関係」は各々区別されたサブシステムとされるが (Minuchin,1974)，このうち夫婦ペアレンティングに関しては，未だ十分な知見の蓄積がみられない。先行研究において申請者は，乳幼児期から青年期後期の子どもをもつ夫婦のペアレンティングをとらえるために「母親が父親の子育て関与に対して行う調整行動」に注目した尺度を作成した（加藤・黒澤・神谷,2014）。その結果，母親は父親に対して，支持・尊重・激励を中心とした“促進”，および，拒否・否定・非難を中心とした“批判”を行っており，母からの“促進”の高さは,父親の子ども関与，育児協働感および夫婦関係満足の高さと関連し，“批判”の高さは,父親の関与，育児協働感や夫婦満足感の低さと関連していた。ただし、定量的調査のため、夫婦ペアレンティング行動の文脈や具体的内容,一連のエピソードの経緯は把握できなかった。また従来、親発達研究は乳幼児期に集中しており、思春期・青年期について，親がとらえる子どもの変化と親発達に関する研究は少ない。

２．研究の目的

本研究は、思春期の子育てにおいて、子どもの発達的変化や問題を背景に、母親が父親に働きかける夫婦ペアレンティング調整行動を明らかにする。本研究のアプローチの特徴は以下の３点である。

① <u>親行動に影響を与える子ども要因への着目</u>…自己表現や主張を伴う思春期の子どもの存在が夫婦ペアレンティング調整に影響を与えている可能性を考慮し、親が今までの方法ではうまくいかないと思う思春期特有の子どもの問題と,それら挑戦的な出来事に対する親の対応の抽出。

② <u>夫婦ペアレンティングに関する“夫婦双方向”の調整行動への着目</u>…「母親から父親への行動(“促進”“批判”)」だけでなく、「父親の反応」「父親から母親への調整行動」「それぞれの調整行動の効果」「父親、母親の認識のずれ」にも留意した相互作用について、夫婦ペアレンティング調整が生じる背景や文脈とともに描く。

③ <u>子育て初期の夫婦ペアレンティングに照らした思春期夫婦の特徴の考察</u>…思春期に突出した特徴をより明確にするために、子育て初期の夫婦ペアレンティングの特徴と照らし合わせながら考察する。

本報告書では、紙幅により①②を中心にまとめる。(なお、③は次の 2 論文に詳細。「加藤道代・神谷哲司（2020）．幼児期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－父親の語りから―．　東北大学大学院教育学研究科年報,69（1），55-78．」「加藤道代・神谷哲司（2021）．幼児期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－母親の語りから―．　東北大学大学院教育学研究科年報,69（2），印刷中」）．

３．研究の方法

第一子が 14，15 歳の子どもをもつ母親 6 名（男児の母親 3 名，女児の母親 3 名)、父親６名(男児の父親３名、女子の父親３名）を対象に半構造化面接調査を実施した。対象者は、第一子年齢と性別を条件として、(株）クロスマーケティングの登録モニターから選定され、父親と母親はペアではない。面接者は、いずれの対象者とも調査時以前の面識はなく、調査時回答以外の個人情報をもたない。調査協力者には、調査会社を通じてモニターポイントが付与された。

夫婦ペアレンティング調整尺度(加藤・黒澤・神谷 ,2014)の“促進”9 項目　“批判”7 項目の中から日常の子育て場面で思いあたるエピソードを語ってもらった。その際、母親の批判行動の経緯，子どもの様子、父母の行動，感情，意図等を明らかにするために、適宜、質問を加えた。

録音し文字化してまとめ，エピソード内容を分類した。本研究は東北大学大学院教育学研究科研究倫理審査委員会の審査と承認を得た（承認番号 15-1-016）。

４．研究成果

(1) 中学生親子のコミュニケーションに関する背景

夫婦ペアレンティング調整の背景にある中学生の生活の様子と家族とのコミュニケーションの実態として、父親はいずれも、「勉強」「成績」「進路（受験）」「部活」「娘か息子か（性別）」に関するエピソードを頻繁に語り、これらのテーマが父子の重要な接点であることがわかった。子ども性別については、特に娘（女子）は母親と仲が良く、父親とは距離があると語られた。

母親は、片づけや勉強等を契機として「叱る親と叱られる子ども」関係を指摘した。特に、父親のしつけの厳しさに対して、子どもが萎縮したり口答えで抵抗する等の反応は、母子関係よりも緊迫しているとらえていた。親を遠ざける一方で、無邪気に接近する子どもの姿も指摘された。

(2) 母親による父親の子育てへの促進的調整行動

① 父親がとらえる母親からの促進（父親回答）

（ⅰ）子どもの言葉や気持ちを代弁する母親

父親の関わりに対する子どものポジティブな反応についての母親の代弁や報告は、子どもの喜びや母親の喜びと感謝が一体となって父親に伝わり、父親の関与動機を高めていた。

（ⅱ）父子接触の機会をアレンジする母親

父親が子どもにかかわる機会を母親がアレンジし、うまく運ぶように準備する母親の行動とともに、日頃から子どもに関する情報を父親に伝え、子どもに関心をもって会話が出来るように配慮する母親の姿が認識されていた。また、父子接触は、母親が自由時間をもちストレスを解消する意味があると言及する父親もあった。

（ⅲ）父親に子どものことで相談・依頼する母親

相談行動と依頼行動の内容は、子どもの学習、成績、受験や進路の話題、しつけの話題等であった。ただし相談行動は、父・母の 2 者間で行われるのに対して、依頼行動は、父親に子どもと働きかけるように母親が頼むことで、母・子・父の 3 者をつなげることになる。特に、母親自身が思春期の子どもに働きかけても効果がないと感じ、父親に助けを求める依頼行動は父親の自信となっていた。

（ⅳ）父親を立てる母親

母親が一段下がって父親を立てる場面は、母親が父親に直接伝える 2 者場面と、母親が父親の前で子どもに向かって話すことで間接的に父親にメッセージを伝えるという、母・子・父 3 者場面が見られた。

② 母親がとらえる父親への促進（母親回答）

（ⅰ）子ども（父親）の言葉や気持ちを父親（子ども）に代弁する母親

母親は父子関係仲介のために、父親と子どもの双方に働きかけていた。子どもの言動や反応を父親に伝える例、その逆に、父親の反応を子どもに伝える例、子どもが父親の考えを知りたがったため父親の考えを代弁をする例、父子のケンカの後、少し時間がたってから、母子だけの場面で、父親の気持ちをソフトに伝え直す例などが抽出された。このカテゴリーは、父親が見ていない場面で母親が子どもに行う働きかけが多くみられていた。

（ⅱ）父子接触の機会をアレンジする母親

父親が子どもに関わる機会をアレンジし、うまく運ぶように準備するという母親の回答は、

父親が認識する母親の姿と概ね一致していた。母親からは、父子場面を増やしたい、特に、母親を除く父子だけの場面にすることで、父親に思春期の子どもの様子をよく知ってもらいたいという意図が語られた。

（ⅲ）父親に子どものことで相談・依頼する母親

学習、成績、受験や進路の話題やしつけの話題など、重要な決定を父親と共有しておこうとする相談や、母親自身ではうまく対応できない場面に、父親による別の視点や対応を期待する依頼であり、概ね父親の受け止めと一致している。

（ⅳ）父親を立てる母親

母親が一段下がって父親を立てる意図は、父子交流の機会が少ないため希薄になってしまう父親の存在を子どもに喚起するためと語られた。父親がその場にいる時だけではなく、不在の時に、子どもに父親の存在を意識させようとするエピソードも挙げられた。

（ⅴ）感謝する母親

母親が父親に感謝するエピソードが語られた。「ありがとう」と直接的な言葉で伝えることもあるが、「いつも悪いね」「よくしてくれるね」「いいお父さんだよね」などの言葉は感謝の言葉として使っていると母親は認識していた。ただし、「感謝する母親」は、母親からは挙げられたが、父親からは挙がらなかった。

(3) 母親による父親の子育てへの批判的調整行動

①父親がとらえる母親からの批判（父親回答）

（ⅰ）父子衝突への割り込みとしての母親

父親は、母親による批判的な割り込み行動は悪意からではなくその場の収束のためと理解していたが、母親が自分のやり方でより上手に子どもに対応すると自信を失い、自分が関わらずに母子だけで進めた方がうまくいくだろうと感じていた。また、母娘の仲の良さを見ると、父娘間の距離と疎外感を感じた。

（ⅱ）父親の対応に対する制止・修正者としての母親

母親が父親に対して直接的に異議を表明し、父親を制止あるいは修正を求める批判行動である。内容は、父親のしつけや叱り方、父親の趣味を子どもにつきあわせること、子どもの勉強に対する声がけの仕方等への批判であった。父親は、こうした母親からの厳然とした批判を受けると、納得する場合もあるが、母親との衝突回避として自分の考えの表明を抑制することも少なくない。母親からの批判を受けた父親は、子育てへの自我関与を強める方向ではなく、距離を置いて母子を遠目に見る位置を維持しようとする関係調整行動がみられた。

（ⅲ）子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親

「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」のように直接批判をするのではなく、「むっとする」など、表情や雰囲気などで母親が否定的なメッセージを送ると、父親も我慢、妥協等、葛藤回避等の関係調整を選択している。したがって、母親の非言語レベルの批判によっても父親の子育てへの関与は阻害される。

②母親がとらえる父親への批判（母親回答）

（ⅰ）「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」

母親が父親に対して直接はっきりと意見をするエピソードは、いずれも子どもの叱り方に関わるものであった。母親自身に明確な基準や方針があって父親を批判する場合と、子どもの味方になって父親を批判する場合が述べられた。子どもの性別で父親の対応に違いがあるという指

摘もあり、特に男子の母親からは、父親の厳しさに対して、「言い過ぎ」「やりすぎ」「それはよくない」という言葉での直接的な制止のエピソードが挙げられた。母親による父親への制止は、夫婦の会話の中だけでなく、「子どもの前で、はっきりと夫を止める」ことにより、子どもにも父親にもメッセージを伝えることが重視されていた。一方、女子の場合は、「やめてあげたら」「褒めてあげて」など、父―息子関係に比べると穏やかな提案形であった。

（ⅱ）仲裁者としての母親

父子の間に立って両者を仲裁する役割が示された。母親は、父親から子どもへの対応について父親を批判するだけではなく、父親の対応にも一理あることを子どもに伝え、子どもの態度に対する批判も行っている。父子間の双方を諌め、取りなし、一方の味方も他方の味方もしながら、両者の関係調整をしていた。ただし、父親のいない場で母子のみで行われる関わりを父親が認識しているかどうかは本調査内では不明であった。

(4) 考察と今後の課題

夫婦ペアレンティング調整行動の促進について、母親から得られたカテゴリーは、概ね父親が認知しているものと一致していた。このことから、母親からの促進は、父親にとっても理解しやすいようである。また、父母いずれの語りからも、促進はその後の父親の子どもへの関与行動を高めていた。父親が“母親の隠れた促進的仲介”を知るならば、夫婦ペアレンティングはさらに調和的となることが考えられる。

これに対して、父親に向けた批判の場合、その後に母親が子どもに対して父親のフォローを行っていることを、父親が知ると知らないとでは、家族関係は大きく違うだろう。母親の仲介・仲裁行動が父親に伝われば、母親の批判的調整行動の真意も伝わり、むしろ親和的な夫婦ペアレンティングにつながる。しかしその機会を逸すれば、父親には母親から批判された記憶だけが残る。夫婦が子育てをめぐる家族機能の全体像を共有するには、父子関係と母子関係をつなぐ父母役割間のコミュニケーションの質が重要な意味を持つと思われた。

青年期の子どもを対象とした先行研究は、母親が子どもに対して肯定的な父親のメッセージを伝え、父子間での仲介的な役割を果たすことが、父子の結びつきを強めるための調節機能となることを示している（戸田ら、2011）。これに加えて本研究は、促進に見られるその他の父子関係強化機能とともに、母親の批判の中にも、多様な父子仲介的調整機能が含まれていることを明らかにした。母親の批判の背景、批判を受けた父親の反応については、夫婦としての関係、母親のコミュニケーションスキル、父親の感受性、子どもの反応や、父子、母子関係のダイナミクスを念頭に置いて、さらに検討していく必要があると思われる。

引用文献

・加藤道代・黒澤泰・神谷哲司（2014）．夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討．　心理学研究，84（6），566-575.

・加藤道代・神谷哲司　(2019)．　思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－父親の語りから－．　東北大学大学院教育学研究科研究年報，　68(1)，121-142.

・加藤道代・神谷哲司（2020）．思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－母親の語りから―．　東北大学大学院教育学研究科年報, 68（2），105-127.

・Minuchin, S. (1974). *Families and Family Therapy*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

・戸田弘二・牧野高壮・菅原英治（2002）．青年期後期の家族関係と精神的健康及び精神的・身体的不適応との関連．北海道教育大学教育実践総合センター紀要，(3)，221-233.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 加藤道代・神谷哲司	４．巻 69（2）
２．論文標題 幼児期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－母親の語りから－.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 塚越友子・加藤道代	４．巻 69（2）
２．論文標題 思春期の心理的不適応チェックリストの作成および信頼性・妥当性の検討.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤道代	４．巻 1（2）
２．論文標題 発達支援における「日常の文脈」に関する再考.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 発達支援学研究	６．最初と最後の頁 28－38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤道代・神谷哲司	４．巻 69（1）
２．論文標題 幼児期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－父親の語りから－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 55－78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 塚越友子・加藤道代	４．巻 69（1）
２．論文標題 思春期の精神的健康に関する親子認識の一致･不一致に関する研究動向と課題	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 225－243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Bao Jing & Michiyo Kato	４．巻 なし
２．論文標題 Determinants of Maternal Emotion Socialization: Based on Belsky’s Process of Parenting Model.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Frontiers in Psychology/Developmental Psychology,	６．最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2020.02044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Bao Jing・加藤道代	４．巻 91（3）
２．論文標題 日本版怒りのメタ情動観念尺度の作成および信頼性・妥当性の検討.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 心理学研究	６．最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤道代・神谷哲司	４．巻 68（2）
２．論文標題 思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－母親の語りから－.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 105－127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Bao Jing・加藤道代	４．巻 68（1）
２．論文標題 日本語版Emotion as a child(EAC)尺度の作成.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 219－229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤道代・神谷哲司	４．巻 68（1）
２．論文標題 思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整－父親の語りから－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 121-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Bao Jing・岩渕将士・加藤道代	４．巻 67（1）
２．論文標題 子どもの情動に対する親の養育に関する研究動向.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 173-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 １．加藤道代・神谷哲司	４．巻 67（１）
２．論文標題 夫婦ペアレンティングの追跡研究－夫婦ペアデータによるAPIM分析から－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東北大学大学院教育学研究科研究年報	６．最初と最後の頁 145-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 ２．加藤道代・神谷哲司	４．巻 76（6）
２．論文標題 幼児期から青年期における子どもの外在化問題行動と夫婦ペアレンティングの関連	５．発行年 2017年
３．雑誌名 小児保健研究	６．最初と最後の頁 637-643
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 生態学的システムからとらえるコロナ禍の子育てー夫婦ペアレンティング、仕事役割と家庭役割のスピルオーバーに焦点をあててー
３．学会等名 日本発達心理学会第32回大会（web開催）
４．発表年 2021年

１．発表者名 神谷哲司・加藤道代
２．発表標題 コロナ禍は子育て夫婦に何をもたらしたか―心理的ストレス、夫婦ペアレンティング、仕事役割と家庭役割のスピルオーバーの経年比較ー
３．学会等名 日本発達心理学会第32回大会（web開催）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 思春期の夫婦ペアレンティングにおける母親から父親への批判－母親の語りからー
３．学会等名 日本心理学会第84回大会（web開催）
４．発表年 2020年

１．発表者名 加藤道代
２．発表標題 思春期の夫婦ペアレンティングにおける母親から父親への批判―母親の語りから―
３．学会等名 東北心理学会第73回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 日本におけるコペアレンティング研究の意義と展望
３．学会等名 日本家族心理学会第36回大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 思春期の子育てにおける母親から父親への批判―父親の語りから―
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 神谷哲司・加藤道代
２．発表標題 子どもの外在化／内在化問題行動が父親の育児行動に与える影響 縦断データによる夫婦ペアレンティング媒介モデルの検討
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 塚越友子・加藤道代
２．発表標題 思春期の内在化問題行動における親子評価の不一致と子どもの疎外感の関連
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 夫婦ペアレンティングの追跡研究－APIMを用いた夫婦ペアデータの分析から－
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 黒澤泰
２．発表標題 日本語版夫婦用多側面ストレス尺度(MSQ-J)作成の試み：関係内と関係外という視点から
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤道代
２．発表標題 夫婦のコペアレンティングを考える
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会ラウンドテーブル
４．発表年 2018年

１．発表者名 Michiyo, KATO & Tetsuji, KAMIYA.
２．発表標題 Mothers’ Encouragement of Fathers’ Involvement in Families with Infants
３．学会等名 16Th World Association for Infant Mental Health World Congress.（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤道代・神谷哲司
２．発表標題 父親の子育て関与に対する母親の批判行動－幼児をもつ父親を対象にー
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤道代
２．発表標題 社会の中の家族、家族の中の個人ー社会心理学の視点から子育てを考えるー
３．学会等名 日本心理学会第82回大会公開シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤道代
２．発表標題 幼児期の夫婦ペアレンティングにおける母親から父親への促進的調整行動
３．学会等名 東北心理学会第72回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 黒澤泰
２．発表標題 夫婦にとっての“ふつう”のストレス．
３．学会等名 日本心理学会第81回大会シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 加藤道代
２．発表標題 幼児期の夫婦ペアレンティングにおける母親から父親への批判的調整行動
３．学会等名 東北心理学会第71回大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	黒澤　泰 (Kurosawa Tai) (00723694)	茨城キリスト教大学・生活科学部・講師 (32101)	
研究分担者	神谷　哲司 (Kamiya Tetsuji) (60352548)	東北大学・教育学研究科・准教授 (11301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関